卒業論文又は卒業研究　　吉野 剛弘

授業概要

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、さまざまな学習を進めるとともに、卒業論文を執筆していくことにする。春期のうちは、履修者の状況に応じて、教職教養、専門教養（小学校全科）の中から必要な内容を扱うことにする。合わせて、専門演習の最後の課題（春休みの宿題）として課してある卒業論文の構想に関する個別指導を実施する。

秋期は、本格的に卒業論文に関する作業を進めていく。個別添削と発表会を積み重ねることで、卒業論文の完成を目指すとともに、２月に予定されている卒業論文発表会の準備を進めていく。

授業計画

第１回	オリエンテーション（春期の進め方）	第 16 回	オリエンテーション（秋期の進め方）
第２回	卒業論文の構想に関する個別指導（1）	第 17 回	卒業論文に関する個別指導（1）-1
第３回	卒業論文の構想に関する個別指導（2）	第 18 回	卒業論文に関する個別指導（1）-2
第４回	卒業論文の構想に関する個別指導（3）	第 19 回	卒業論文に関する個別指導（1）-3
第５回	教職教養・専門教養に関する輪講（1）	第 20 回	卒業論文の進捗の発表（1）-1
第６回	教職教養・専門教養に関する輪講（2）	第 21 回	卒業論文の進捗の発表（1）-2
第７回	教職教養・専門教養に関する輪講（3）	第 22 回	卒業論文に関する個別指導（2）-1
第８回	教職教養・専門教養に関する輪講（4）	第 23 回	卒業論文に関する個別指導（2）-2
第９回	教職教養・専門教養に関する輪講（5）	第 24 回	卒業論文に関する個別指導（2）-3
第 10 回	教職教養・専門教養に関する輪講（6）	第 25 回	卒業論文の進捗の発表（2）-1
第 11 回	教職教養・専門教養に関する輪講（7）	第 26 回	卒業論文の進捗の発表（2）-2
第 12 回	教職教養・専門教養に関する輪講（8）	第 27 回	卒業論文に関する個別指導（3）-1
第 13 回	教職教養・専門教養に関する輪講（9）	第 28 回	卒業論文に関する個別指導（3）-2
第 14 回	教職教養・専門教養に関する輪講（10）	第 29 回	卒業論文に関する個別指導（3）-3
第 15 回	教職教養・専門教養に関する輪講（11）	第 30 回	まとめ（卒業論文発表会に向けて）

到達目標

・小学校教員採用試験に向けた学習を通して、小学校教員に必要な資質・能力を培うことができる。
・卒業論文を完成させることができる。

履修上の注意

・春期は小学校教員採用試験に向けた学習が中心で、秋期は卒業論文に関する指導が中心となる。４ 年秋期は、小学校の採用試験は全て終了しているが、幼稚園や保育所の就職活動のピークであるため、進路変更をする者は春期および夏休みのうちに卒業論文に関する作業を自主的に進めること。

予習・復習

・適宜演習の機会は設けるが、自主的に教員採用試験問題にあたってみるとよい。論作文や面接にあっても、知識なしには太刀打ちできないという事実を肝に銘じることが何よりも重要である。
・秋期の個別指導および発表については、すべて授業時間外に必要なものを準備すること。

評価方法

・輪講・個別指導・発表における成果（50%）・卒業論文（50%）

テキスト

・指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

卒業論文又は卒業研究　　佐内 信之

授業概要

小学校国語科教育に関する各自の問題意識に基づき、参考文献の講読、学生同士の議論を行う。その上で、課題意識にしたがって先行研究を踏まえ、論文題目と研究計画の作成を図る。その後も絶えず、各自の課題意識を修正しながら、卒業論文の完成をめざす。

授業計画

第 1 回	問題意識を発表する。	第 16 回	論文題目を発表する。
第 2 回	問題意識を分析する。	第 17 回	論文題目を分析する。
第 3 回	問題意識を検討する。	第 18 回	論文題目を検討する。
第 4 回	参考文献を収集する。	第 19 回	研究計画を発表する。
第 5 回	参考文献を講読する。	第 20 回	研究計画を分析する。
第 6 回	参考文献を整理する。	第 21 回	研究計画を検討する。
第 7 回	課題意識を発表する。	第 22 回	論文草稿を検討する。
第 8 回	課題意識を分析する。	第 23 回	論文構成を検討する。
第 9 回	課題意識を検討する。	第 24 回	論文題目を修正する。
第 10 回	先行研究を収集する。	第 25 回	先行研究を再収集する。
第 11 回	先行研究を講読する。	第 26 回	先行研究を再講読する。
第 12 回	先行研究を整理する。	第 27 回	先行研究を再整理する。
第 13 回	論文題目を作成する。	第 28 回	論文概要を作成する。
第 14 回	研究計画を作成する。	第 29 回	論文概要を発表する。
第 15 回	論文題目を決定する。	第 30 回	発表原稿を作成する。
		第 31 回	卒業研究発表会

到達目標

・自分の問題意識にしたがって、参考文献・先行研究を購読することができる。
・自分の問題意識・課題意識を発表して、仲間との間で討論することができる。
・自分の論文題目・研究計画を立てながら、卒業論文を執筆することができる。

履修上の注意

発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。また、順番に発表を行うので欠席しないこと。

予習・復習

あらかじめ授業に関係する文献を読んでおく。また、自分の考えを整理してレポートにまとめておく。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

適宜、授業で提示する。

卒業論文又は卒業研究　　坂田 知子

授業概要

一人ひとりの学生が関心を持つ保育内容（健康）や運動、体育を中心としたテーマについて、先行研究を調べ、問題意識を深めていく。実際に論文を作成する際は、論文テーマに基づいたデータを収集、分析し、その結果に基づいて考察を行っていく。これら具体的な活動を通して、論文の作成方法を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	データ分析①
第 2 回	研究テーマの選び方①	第 17 回	データ分析②
第 3 回	研究テーマの選び方②	第 18 回	データ分析③
第 4 回	研究テーマの決定①	第 19 回	データ分析④
第 5 回	研究テーマの決定②	第 20 回	論文執筆（はじめに）①
第 6 回	研究テーマに沿った参考文献を探す①	第 21 回	論文執筆（はじめに）②
第 7 回	研究テーマに沿った参考文献を探す②	第 22 回	論文執筆（方法）
第 8 回	参考文献の報告①	第 23 回	論文執筆（結果）①
第 9 回	参考文献の報告②	第 24 回	論文執筆（結果）②
第 10 回	研究デザインの検討	第 25 回	論文執筆（考察）①
第 11 回	研究テーマに沿ったデータ収集①	第 26 回	論文執筆（考察）②
第 12 回	研究テーマに沿ったデータ収集②	第 27 回	論文執筆（まとめ）
第 13 回	研究テーマに沿ったデータ収集③	第 28 回	論文執筆（参考文献）
第 14 回	研究テーマに沿ったデータ収集④	第 29 回	研究結果発表の準備
第 15 回	まとめ	第 30 回	研究結果の発表

到達目標

・卒業論文のテーマに基づいて、データを収集、分析、考察することができる。
・卒業論文の執筆を通して、論文の作成方法を身につけることができる。

履修上の注意

基本的に幼稚園、保育園や小学校でアンケート調査を実施します。
パソコンを用いて、分析、検討を行います。

※コロナの流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。
実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。
また、費用がかかりますので、準備をしてください。

予習・復習

・インターネットを活用しながら論文作成に必要な資料を収集する。
・執筆した論文を推敲し、適正な表現方法を検討する。

評価方法

卒業論文の構成・内容（80%）及び卒業論文発表会での発表内容（20%）を総合的に評価する。

テキスト

特に、指定しない。

卒業論文又は卒業研究　　三浦 正雄

授業概要

主に、日本の童話（宮沢賢治、『赤い鳥』の作家、小川未明、浜田広介、新美南吉、松谷みよ子ら現代の作家等）について指導します。また、理解を助けるために様々な書籍（文学、民俗学、文化人類学、言語学、心理学、社会学など）を読み、研究のための教養を養う指導も行います。昔話、演劇など隣接分野や海外の童話・昔話等についても指導します。

授業は研究発表を中心に行い、それをもとに意見交換・討論・調査などを行います。また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。卒業論文を書く力を養うために、早いうちから各自に課題を出します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	卒論テーマの決定
第 2 回	第三次仮卒論テーマの決定	第 17 回	研究発表１（日本の昔話）
第 3 回	研究発表１（世界の昔話）	第 18 回	研究発表２（日本の昔話）
第 4 回	研究発表２（世界の昔話）	第 19 回	研究発表３（日本の童話・絵本）
第 5 回	研究発表３（世界の昔話）	第 20 回	研究発表４（日本の童話・絵本）
第 6 回	研究発表４（世界の童話・絵本）	第 21 回	研究発表５（日本の童話・絵本）
第 7 回	研究発表５（世界の童話・絵本）	第 22 回	研究発表６（日本のわらべ歌）
第 8 回	研究発表６（世界の童話・絵本）	第 23 回	研究発表７（日本のわらべ歌）
第９回	研究発表７（世界の児童文学）	第 24 回	研究発表８（日本のわらべ歌）
第 10 回	研究発表８（世界の児童文学）	第 25 回	研究発表９（素話・言葉遊び）
第 11 回	研究発表９（世界の児童文学）	第 26 回	研究発表 10（素話・言葉遊び）
第 12 回	研究発表 10（日本の昔話）	第 27 回	研究発表 11（素話・言葉遊び）
第 13 回	施設見学１（国際子ども図書館）	第 28 回	施設見学４（アンデルセン公園）
第 14 回	施設見学２（東京子ども図書館）	第 29 回	施設見学５（国立国会図書館）
第 15 回	施設見学３（ちひろ美術館）	第 30 回	施設見学６（周辺見学）
		第 31 回	レポート解説

到達目標

①（春期）第三次仮卒業論文テーマによる調査と研究発表の練習をへて、秋期授業開始時に自分に適した卒論テーマを決定する力をつけることができる。

②（秋期）決定した卒業論文テーマによる調査と執筆を行うことができる。

履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、調査と研究発表、執筆を行い、その内容も評価に含めます。提出物がある時は、提出物も評価に含めます。童話を中心に様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を行わなかった場合は、単位を放棄したものとみなします。

また、土日祝日や長期休暇期間中に授業を振り替えて図書館・博物館などの外部施設見学も行います。見学施設は、その時点での展覧会や展示等の内容により決定します。

これ以外に、卒論準備のために各人に適した課題を出します。

予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不充分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（卒業論文、レポート等）

卒業論文（途中過程の研究発表・発表レポートふくむ）70%、受講態度 30%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

卒業論文又は卒業研究　　山本 幸正

授業概要

この授業では音楽または音楽教育の論文作成を目指す。音楽・音楽教育の論文も、論文執筆の過程は他の分野と大きく変わらない。ただ、音楽用語は英語からの翻訳語が多く、今日でもその意味を正確にとらえて用いることはなかなか難しい。そのため、用語の定義を行うこともこの分野の論文執筆には欠かせない。

卒業論文の作成においては、「自分がいまどこにいるのか」の問いをもつこと、早くゴールまでの地図を頭の中に作り、何をしなければならないのか、どのような手順でやっていくのかを実感としてもつこと、そのためには自分の卒論テーマに即した具体的な質問を用意することについて指導する。

授業計画

第 1 回	論文執筆環境の整備	第 16 回	夏休みの調査報告・プレゼン
第 2 回	研究計画	第 17 回	論文執筆・ディスカッション（継続）
第 3 回	専門的知識へのアクセス①事典	第 18 回	同上、執筆要項・手引き
第 4 回	専門的知識へのアクセス②概説書	第 19 回	同上、論文構成
第 5 回	教育現場調査①幼児・児童の実態	第 20 回	同上、引用方法
第 6 回	教育現場調査②指導計画	第 21 回	同上、図・表の示し方
第 7 回	教育現場調査③教師の指導スキル	第 22 回	同上、中間発表
第 8 回	教育現場調査④授業評価	第 23 回	同上、見出しの立て方
第 9 回	論文検索①CINII	第 24 回	同上、段落、論理構成
第 10 回	論文検索②J-STAGE	第 25 回	同上、章・節・項
第 11 回	タイトル仮決定・プレゼン	第 26 回	同上、結論の書き方
第 12 回	序論①私的理由	第 27 回	同上、文献一覧の書き方
第 13 回	序論②公的理由	第 28 回	同上、パワーポイント作成
第 14 回	文献リスト作成	第 29 回	同上、発表会の準備
第 15 回	夏休みの調査計画	第 30 回	同上、授業内検討会
		第 31 回	発表会

到達目標

1．論文の電子データ（PDF ファイル）を検索するスキルを身に付け、保管・活用することができる。
2．事典等で効率的に専門的知識にアクセスすることができる。
3．論文の執筆要項を十分に理解し、論文執筆に生かすことができる。
4．期限までに卒業論文を完成させ提出することができる。

履修上の注意

・卒業にかかわる必修科目ですので、心して取り組んでください。
・卒論にかかわるメールやチャット等での連絡にはすぐ返信するようにしてください。
・PDF ファイルを読み、ワードで文書を作成するため、パソコンの作業が必須です。習熟してください。
・論文等のデータは必ず２か所以上に保存するようにし、万が一に備えてください。
・論文の執筆はゼミ以外の時間に行うことになります。スケジュール管理を向上させましょう。
・３年時の専門演習に引き続き、音楽の活動も短時間ながら適宜行います。

予習・復習

・予習が主になります。ネットを活用しながら論文作成に必要な資料を収集したり、ダウンロードした論文を読んだり、論文を書いたり、といった作業が中心になります。

評価方法

①卒業論文の作成過程での姿勢・態度（30%）　②卒業論文の内容・構成（50%）　③発表会での発表内容・態度（20%）を総合的に評価します。

テキスト

特に指定しません。適宜論文の書き方の書籍などを紹介します。

卒業論文又は卒業研究　　森本 昭宏

授業概要

前年度の専門演習では、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに，子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指し、学内外で実際の子どもたちを対象とした造形活動を体験した。この演習では「卒業研究」と「卒業論文」のどちらかを選択して研究を進めていく。子どもの豊かな表現を促すために、保育･教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導の研究を理論と実践を通して学ぶ。幅広い材料体験を通して実践的に学び、表現の楽しさを自身が味わっていく。

授業計画

第 1 回	春期授業の概要説明	第 16 回	秋期授業の概要説明
第 2 回	各自の研究テーマ構想の報告	第 17 回	制作スケジュールの確認と発表準備
第 3 回	先行研究を検討：研究テーマ設定	第 18 回	中間報告会発表準備：プレゼン準備
第 4 回	乳幼児期からの描画の発達段階（平面）	第 19 回	中間報告会の発表：学園祭を活用
第 5 回	①描画材の研究：静物画を描く	第 20 回	材料研究・問題意識の再確認
第 6 回	②水彩画の研究：混色とグラデーション	第 21 回	材料研究・目的と考察について
第 7 回	造形の発達段階と材料体験について（立体）	第 22 回	テーマについて、追加の必要事項確認
第 8 回	①自然素材を活用したオブジェ制作	第 23 回	参考となった資料・文献検索について
第 9 回	②親子を対象とした造形ワークショップ	第 24 回	情報収集・整理・計画と制作進行
第 10 回	材料体験と各自の研究の確認	第 25 回	口頭発表するために発表要旨準備
第 11 回	幼･保･小学校の連携と総合的な活動	第 26 回	全体進捗状況の確認と制作進行
第 12 回	①ICT を活用した鑑賞教育について	第 27 回	要旨作成と研究作品写真撮影
第 13 回	②スマホ･タブレットを活用した名画鑑賞	第 28 回	卒業研究・卒業論文要旨作成
第 14 回	各自の研究の確認 問題意識の明確化	第 29 回	卒業研究・卒業論文の完成
第 15 回	課題研究：レポート作成について	第 30 回	卒業研究・論文の発表会リハーサル
		第 31 回	２月の卒研発表会に向けて最終確認

※公共施設にて、親子を対象としたワークショップの学外活動と子どもの絵の審査会見学を計画中。

到達目標

- 材料をもとにした造形及び創造活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高めることができる。
- 幼児・児童の絵画造形の発達段階を理解し、教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や，基礎となる技能を習得し、子どもの豊かな創造力を育む実践力を養うことができる。
- 研究テーマを設定して、継続的に研究計画を遂行する能力を養うことができる。

履修上の注意

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりもむしろ時間を掛けた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士との対話的で深い学びを目指す。

予習・復習

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップなどの参加を検討中。
ファシリテーター（促進者）として子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

評価方法

課題に取り組む態度，製作した作品の質と量（50％）、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動（30％）、製作レポートの内容（20％）により評価する。

テキスト

- 教科書名：保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」
- 著 者 名：梅澤実・森本昭宏編著
- 出版社名：創成社
- 出 版 年（ISBN）：2020

卒業論文又は卒業研究　　杉浦 浩美

授業概要

家族社会学、ジェンダー学にかかわる領域に研究関心をもつ学生を対象に、学生自らが問題意識を高め、研究テーマを明確にし、卒業論文を作成できるよう指導する。専門演習での学びをもとに、資料検索の方法や文献の引用・出典明記のルールを再度確認するとともに、調査を実施する学生には調査方法や調査倫理、データ分析の方法について等、それぞれの研究に必要な事項について指導する。後期は毎週、各自が進捗状況について報告をし、執筆した部分に対してゼミ生同士で質問やコメントをしあう。互いに協力し励まし合いながら論文の完成を目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	夏休みの進捗状況について各自報告
第 2 回	論文作成のための基礎的事項の確認	第 17 回	執筆部分について各自報告、議論
第 3 回	研究スケジュールの作成	第 18 回	執筆部分について各自報告、議論
第 4 回	「問題関心」と研究テーマの明確化	第 19 回	執筆部分について各自報告、議論
第 5 回	「問い」と「仮説」の検討	第 20 回	執筆部分について各自報告、議論
第 6 回	「研究の目的」と「研究方法」の検討	第 21 回	執筆部分について各自報告、議論
第 7 回	参考文献リストの作成	第 22 回	執筆部分について各自報告、議論
第 8 回	先行研究レビュー①基礎的文献	第 23 回	執筆部分について各自報告、議論
第 9 回	先行研究レビュー②ジャーナル論文	第 24 回	執筆部分について各自報告、議論
第 10 回	先行研究レビュー③統計調査	第 25 回	執筆部分について各自報告、議論
第 11 回	「問い」と「仮説」の再検討	第 26 回	執筆部分について各自報告、議論
第 12 回	「研究の目的」と「研究方法」の確定	第 27 回	執筆部分について各自報告、議論
第 13 回	目次の作成	第 28 回	執筆部分について各自報告、議論
第 14 回	「はじめに」を執筆	第 29 回	執筆部分について各自報告、議論
第 15 回	論文執筆を開始する	第 30 回	卒論完成原稿提出（ゼミ内報告会）
		第 31 回	学科の卒論報告会の準備

到達目標

1．自らの問題関心にもとづき、研究テーマを明確にできる。
2．文献の引用・出典明記のルールや調査倫理を遵守できる。
3．卒業論文を完成させ、報告会での報告ができる。

履修上の注意

１年間、卒業論文作成に真摯に向き合う態度を求める。

予習・復習

授業は報告が中心となる。論文執筆は、授業時間以外に、個々人が自覚をもってすすめること。

評価方法

ゼミでの報告を含めた卒業論文への取り組み（30%）と卒業論文の内容（70%）で総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに応じて、参考文献、必要文献は指導する。

卒業論文又は卒業研究　　石橋　優美

授業概要

発達心理学や教育心理学に関する研究テーマについて、卒業論文を執筆する。
各自の研究テーマに関する先行研究を読み込み、先行研究の成果と課題を明らかにする。それを踏まえて、観察や調査を行い、データ収集をする。収集したデータを分析し、結果と考察をまとめる。また、自分の研究を他者に向けて発表し合い、建設的な討議を行う。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第 2 回	卒業論文の向けての構想の確認①	第17回	調査の実施・結果の確認・討議①
第 3 回	卒業論文の向けての構想の確認②	第18回	調査の実施・結果の確認・討議②
第 4 回	卒業論文の向けての構想の確認③	第19回	調査の実施・結果の確認・討議③
第 5 回	心理学研究の手法について①	第20回	調査の実施・結果の確認・討議④
第 6 回	心理学研究の手法について②	第21回	調査の実施・結果の確認・討議⑤
第 7 回	心理学研究の手法について③	第22回	卒業論文の執筆と添削①
第 8 回	先行研究の検討・発表①	第23回	卒業論文の執筆と添削②
第 9 回	先行研究の検討・発表②	第24回	卒業論文の執筆と添削③
第10回	先行研究の検討・発表③	第25回	卒業論文の執筆と添削④
第11回	先行研究の検討・発表④	第26回	卒業論文の執筆と添削⑤
第12回	先行研究の検討・発表⑤	第27回	卒業論文の執筆と添削⑥
第13回	データ収集計画の確認①	第28回	卒業論文の執筆と添削⑦
第14回	データ収集計画の確認②	第29回	卒論発表会の予行演習①
第15回	データ収集計画の確認③	第30回	卒論発表会の予行演習②
		第31回	卒論発表会

到達目標

・自らの研究テーマに関する先行研究を読み込み、先行研究の成果と課題を明らかにすることができる。
・発達や教育に関わるテーマを追求するための、適切なデータ収集を行うことができる。
・自ら関心をもった研究テーマについて、卒業論文を作成することができる。
・自らの研究内容について、他者に適切に説明できる。

履修上の注意

・このゼミでは下記を重視するため、やむを得ない理由以外での遅刻、欠席は認めない。
・主体的かつ粘り強く課題に取り組む姿勢を求める。
・他者の発表や意見を聞いたり、感想や意見を述べたりすることでお互いに学び合う姿勢を求める。
・外部施設の見学を行う場合がある。

予習・復習

先行研究の調査と検討、卒業論文に関する調査の計画と実施、卒業論文の執筆、発表の準備など、各自の執筆の進行状況に合わせて指示する。

評価方法

授業への参加態度（20%）、発表（20%）、卒業論文（60%）によって、総合的に判断する。

テキスト

各自の研究テーマに応じて、指示する。

卒業論文又は卒業研究　　増南 太志

授業概要

各自の研究テーマについて、実際に調査研究を行い、卒業論文を執筆する。
卒業論文の作成をとおして、研究テーマに関する理解を深めるとともに、課題に対して仮説を立て検証する力、資料を正しく読み取る力、データを分析し情報を引き出す力、それらの結果をもとに考察する力、研究の成果を発表する力を身につける。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第 2 回	問題と目的の作成１（研究の背景）	第17回	調査データの整理１（データの確認）
第 3 回	問題と目的の作成２（研究の目的）	第18回	調査データの整理２（クレンジング）
第 4 回	問題と目的の作成３（研究の仮説）	第19回	調査データの整理３（傾向の確認）
第 5 回	調査資料の作成１（調査タイプの把握）	第20回	統計解析の学習１（単純集計）
第 6 回	調査資料の作成２（調査項目の洗出し）	第21回	統計解析の学習２（クロス集計）
第 7 回	調査資料の作成３（調査項目の選定）	第22回	統計解析の学習３（差の検定）
第 8 回	調査資料の作成４（調査項目の見直し）	第23回	結果の作成１（主な結果の記述）
第 9 回	予備調査と調査資料の見直し1	第24回	結果の作成２（検定結果の記述）
第10回	予備調査と調査資料の見直し2	第25回	結果の作成３（図表の記述）
第11回	データ収集1	第26回	考察の作成１（仮説に対する考察）
第12回	データ収集２	第27回	考察の作成２（その他の結果の考察）
第13回	データ収集３	第28回	考察の作成３（今後の課題の記述）
第14回	春期のまとめ	第29回	卒論発表予行演習１
第15回	休み期間中の作業内容の確認	第30回	卒論発表予行演習２
		第31回	卒業論文提出

到達目標

・興味・関心のある事柄に関する文献や資料を批判的に読むことができる。
・興味・関心のある事柄について、自ら課題を見つけ、解決の手立てを考えることができる。
・興味・関心のある事柄に関する自らの考えを、論理的に説明することができる。

履修上の注意

・卒業論文は時間をかけて積み重ねつつ作成するため、安易に欠席しないこと。
・授業に主体的に参加するとともに、他者の発表も興味・関心を持つこと。
・剽窃、論文代行、データ改ざん・捏造など研究不正は絶対にしないこと。

予習・復習

授業内容の特性上、発表資料や調査資料の作成、データ収集・分析、卒業論文執筆等があるため、授業時間外で取り組むことが多い。

評価方法

授業態度（30%）、卒業論文の内容（70%）で評価します。なお、研究不正が発覚した場合は、不可となります。

テキスト

特になし。

卒業論文又は卒業研究　　長友 大幸

授業概要

前年度の専門演習において学び獲得してきた卒業論文作成に必要な基礎的知識とスキルを応用させ，各自の設定した卒業論文のテーマに基づき研究計画を立案し遂行する。

本演習の前半は，理科教育・環境教育に係わる卒業論文を作成するための計画立案，既往文献調査を通じて自身の研究の方向づけができるようにする。

後半は，研究目的，研究方法を明確にして実験・観察・調査等を行って卒業論文を執筆し，その成果を対外的に示すための表現力を身につけることができるようにする。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第１６回～第１７回	研究目的の検討と発表
第２回	卒業論文の書き方	第１８回～第１９回	研究方法の検討と発表
第３回～第５回	テーマの決め方，テーマ決定	第２０回～第２１回	実験・観察・調査 ※学外活動を含む
第６回～第８回	研究の進め方，計画立案	第２２回～第２３回	データの分析と解釈
第９回～第１０回	文献検索の方法	第２４回～第２５回	経過報告
第１１回～第１２回	文献の読み方	第２６回～第２８回	卒業論文の執筆
第１３回～第１４回	テーマの見直し	第２９回	卒業論文発表会の準備
第１５回	構想発表	第３０回	卒業論文発表会

到達目標

１．理科教育や環境教育に係わる卒業論文のテーマにふさわしい観察・実験及び調査の計画を立てることができる。

２．観察・実験及び調査などを計画に従って実施し，結果を卒業論文としてまとめ，発表することができる。

履修上の注意

授業を土日に振り替えて，社会教育施設や小中学校の授業観察，野外観察などに行く予定である。したがって，指定した校外学習日に必ず出席すること。

個人発表の機会が多くなるので，欠席しないことが前提になる。遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20分以上の遅刻は欠席として扱う。

予習復習

本演習を履修し，卒業論文の単位を修得するには，プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また，授業内で得た知識を復習することも必要となる。

評価方法

授業中の態度や参加状況（２０％），プレゼンテーションへの取り組みと発表（２０％），卒業論文（６０％）によって総合的に判断する。

卒業論文提出に至るまでの自身のプレゼンテーションを無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

テキスト

適宜印刷資料を配付する。

卒業論文又は卒業研究　　藤野　好美

授業概要

４年間の学びの集大成として、卒業論文に取り組みます。各自で興味のあるテーマの文献や資料の検討を行い、先行研究を調べ、これまでどのような研究が行われてきたのかをまとめ、問題点や課題を見出します。そこから、自分は卒業論文として何を明らかにしたいのか、そのためにどんなことを調べなければならないのかといったことを研究計画書にまとめ、卒業論文のテーマや研究目的を設定します。文献購読や調査（アンケートやインタビュー等）をふまえ、各自で卒業論文としてまとめ執筆することとします。

授業計画

第 １ 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第 ２ 回	先行研究について	第17回	文献購読
第 ３ 回	先行研究について	第18回	文献購読
第 ４ 回	先行研究について	第19回	文献購読
第 ５ 回	先行研究について	第20回	卒業論文の執筆
第 ６ 回	研究計画書の作成	第21回	卒業論文の執筆
第 ７ 回	研究計画書の作成	第22回	卒業論文の執筆
第 ８ 回	調査デザインの作成	第23回	卒業論文の執筆
第 ９ 回	調査デザインの作成	第24回	卒業論文の執筆
第10回	調査の実施	第25回	卒業論文の執筆
第11回	調査の実施	第26回	卒業論文の執筆
第12回	調査の実施	第27回	卒業論文の執筆
第13回	調査の実施	第28回	卒業論文の執筆
第14回	調査のまとめ	第29回	卒業論文の執筆
第15回	調査のまとめ	第30回	まとめ
		第31回	まとめ

到達目標

・自分の興味のあるテーマについて、先行研究を読み込み、問題点や課題を見出すことができる。
・研究目的を設定し、何を明らかにするのかを明確にし、そのためにどういう調査が必要なのかといったことをまとめた研究計画書を作成することができる。
・研究計画書にもとづき、調査を実施することができる。
・実施した調査結果をふまえ、卒業論文を執筆することができる。

履修上の注意

・自分の興味のあるテーマを設定してもらいますが、担当教員の専門上、子ども分野にこだわる必要はないけれども、社会福祉にかかわる領域で考えてもらうことになります。

予習・復習

自分の卒業論文であるので、主体的に予習・復習に取り組んで下さい。

評価方法

授業への参加の状況（30%）、卒業論文に取り組んだ過程（30%）、完成した卒業論文（40%）をもとに、総合的に評価する

テキスト

必要があれば、授業内で資料は配布することとします。

卒業論文又は卒業研究　　堀田 正央

授業概要

専門演習で得た知見を活かし、自分の興味を持った分野で卒業論文のテーマを設定し、先行研究等を精査しながらバックグラウンドクエスチョンに対する答えを明確にし、体的なリサーチクエスチョンに基づいた研究計画を立案する。その後、研究目的に沿った仮説を設定し、科学的な方法論を用いた独自調査通じた仮説検証を通じて、具体なエビデンスをベースした立論行い、質の高い卒業論文作成を目指す。

授業計画

第 1 回	卒業論文のテーマ発表	第 16 回	本調査①
第 2 回	研究計画の作成①	第 17 回	本調査②
第 3 回	研究計画の作成②	第 18 回	本調査③
第 4 回	研究計画の作成③	第 19 回	本調査結果の分析と考察①
第 5 回	研究計画の発表と文献レビュー①	第 20 回	本調査結果の分析と考察②
第 6 回	研究計画の発表と文献レビュー②	第 21 回	本調査結果の分析と考察③
第 7 回	研究計画の発表と文献レビュー③	第 22 回	卒業論文作成の経過発表①
第 8 回	論文構成とスケジュールの確認①	第 23 回	卒業論文作成の経過発表②
第 9 回	論文構成とスケジュールの確認②	第 24 回	卒業論文作成の経過発表③
第 10 回	論文構成とスケジュールの確認③	第 25 回	卒業論文作成の経過発表④
第 11 回	調査方法と対象の検討①	第 26 回	卒業論文作成第一稿の提出
第 12 回	調査方法と対象の検討②	第 27 回	修正箇所の検討①
第 13 回	プレ調査①	第 28 回	修正箇所の検討②
第 14 回	プレ調査②	第 29 回	修正箇所の検討③
第 15 回	プレ調査結果発表	第 30 回	卒業論文最終提出

到達目標

学位取得に十分な水準の卒業論文を作成する。

履修上の注意

自身の発表週においては十分な準備を行った上で臨むこと。
卒業論文第一稿、卒業論文要旨、卒業論文最終稿の提出については締め切りを厳守すること。

予習・復習

発表の前の予習として先行研究等を読み込み、授業時間内でディスカッションすべき点を明確にすること。
発表後の復習として、授業内で見出した課題について一定の応えを見出し、研究計画や論文に反映させること。

評価方法

授業内でのディスカッションへの参画のあり方(20%)、卒業論文(80%)

テキスト

特に定めない

卒業論文又は卒業研究　　堀田 諭

授業概要

本演習は、卒業論文の執筆を目的とする。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、自分だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、それを育てる作法、調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し高めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法について体験・実践していく。最終的には卒業論文という独特な世界をつくることになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：卒業論文の構成	第 16 回	調査内容の報告と共有①発表空間の構築
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容の報告と共有②研究倫理教育
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究方法論の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究方法論の修正②対象と方法の検討
第 5 回	文献レビュー報告①目的と意義	第 20 回	研究方法論の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献レビュー報告②問いとの関連性	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献レビュー報告③図式化デザイン1	第 23 回	卒業論文執筆・要旨の修正①構成の修正
第 9 回	文献レビュー報告④図式化デザイン2	第 24 回	卒業論文執筆・要旨の修正②ストーリー
第 10 回	研究計画の作成②先行研究の調査法	第 25 回	卒業論文執筆・要旨の修正③研究目的
第 11 回	文献レビュー報告⑤他の関連分野の検討	第 26 回	口頭発表・質疑応答の方法と意義
第 12 回	文献レビュー報告⑥まとめと考察の違い	第 27 回	卒業論文執筆の課題の共有①データ再整理
第 13 回	研究計画の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文執筆の課題の共有②参考文献整理
第 14 回	卒業論文中間発表①他者の課題の共有化	第 29 回	卒業論文発表会・質疑応答①主張の作法
第 15 回	卒業論文中間発表②自己の課題の自覚化	第 30 回	卒業論文発表会・質疑応答②応答の作法
		第 31 回	合同卒業論文発表会

到達目標

・自ら関心をもった研究テーマについて、卒業論文を作成することができる。
・文献購読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身に付けることができる。

履修上の注意

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしていきましょう。

なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

予習・復習

基本的には、卒業論文に関する調査・執筆が予習および復習となります。

授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

評価方法

・卒業論文・論文要旨：70％
・報告・発表：20％
・議論の作法や姿勢：10％

テキスト

テキストや購読文献は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて議論していきます。

参考文献：やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他（2013).『質的心理学ハンドブック』新曜社.
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016).『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア.
トニー・E・アダムス他（2022).『オートエスノグラフィー――質的研究を再考し、表現するための実践ガイド』新曜社.
ウヴェ・フェリック（2011).『新版　質的研究入門――＜人間の科学＞のための方法論』春秋社.
耳塚寛明・中西啓喜（2021).『教育を読み解くデータサイエンス――データ収集と分析の論理』ミネルヴァ書房.